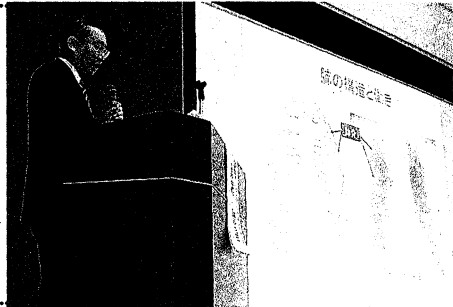


がんの最新治療法学ぶ

神大病院 市民公開講座に240人

がんの治療を考える市民公開講座「神戸から発信するシリーズ『根治を目指す最新がん治療法』」の第1回が20日、神戸市中央区楠町7の神戸大学医学部付属病院シスメックスホールであった。約240人が最新の治療法について学んだ。

同病院や神戸新聞社などでつくる実行委が主催。年間5回の講座を開く。初回は同大学院医学研究科の眞庭謙昌教授が肺がん、同大医学部付属国際がん医療・研究センターの角泰雄副



肺がんの最新治療法について講演する眞庭謙昌教授。神戸大学付属病院シスメックスホールセンター長が大腸がんについて講演した。

眞庭教授は「切除する量が少ないほど肺の機能は維持されるが、しっかり切除した方が再発の危険性は低い」と指摘。傷口を小さく抑える「完全鏡視下手術」も紹介し、「個別的でやさしい治療が今後の肺がん手術の在り方」と話した。

また、角副センター長は、大腸がんの手術が、開腹から腹腔鏡に移行した歴史を解説。「映像技術の進化でほとんど血を流さずに手術できるようになった」と述べ、「ロボットや人工知能(AI)の発達でさらに大腸がん手術の精度が高まるだろう」と説明した。

(金 慶順)